

I

退院時の情報把握の重要性

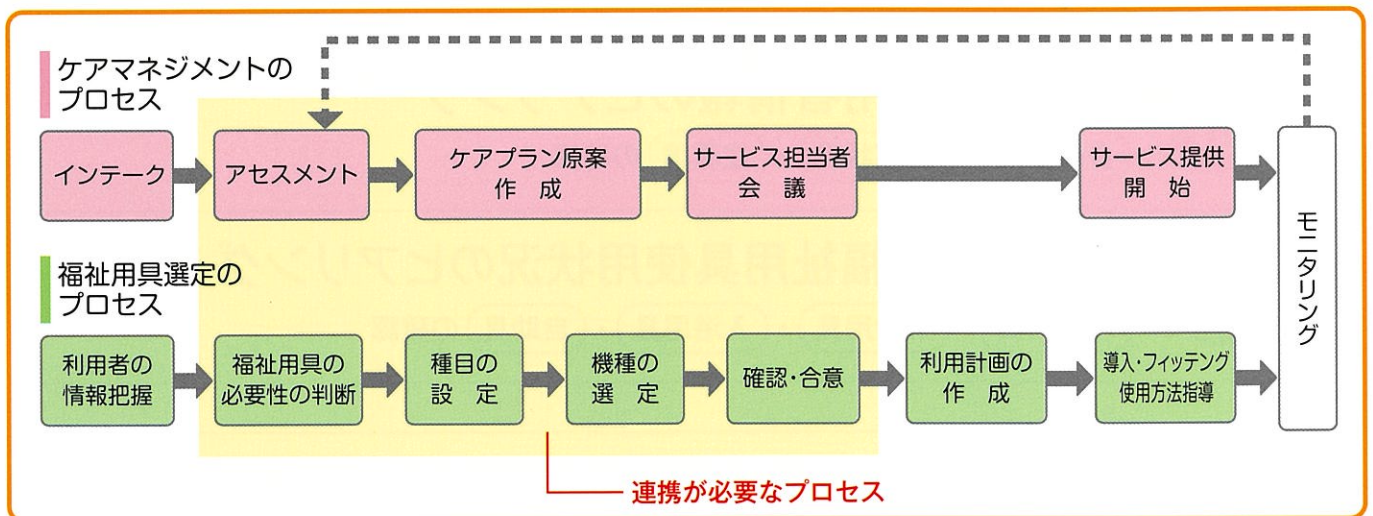
福祉用具は日常生活動作の自立度を向上させるための有効な手段の一つです。

要介護者や障害者が福祉用具を効果的に使用するには

- 福祉用具の必要性の判断
- 種目の設定
- 機種を選定
- 確認・合意
- 利用計画の作成
- 適合調整(フィッティング)・使用方法指導
- モニタリング

といった適切なプロセスを経ることが大切です。

ケアマネジメントに係る専門家は必要な情報を十分把握し、効果的な福祉用具の選定に活用することが不可欠です。



脳血管障害など入院加療を必要とする疾患では、医学的リハビリテーションの過程で、はじめて車いすや入浴補助用具などの福祉用具に出会います。

入院中に福祉用具を試用・体験するものの、病院での環境と自宅の環境や介護状況は全く異なるため退院時に適切な福祉用具を選定することは大変重要です。

退院に向けて生活を再構築するには、病院スタッフと在宅支援スタッフがお互いに連携をすることが大切です。

しかしながら、多忙等の理由から相談を行う時間が持てず、情報共有が十分に図られないため施設・病院から在宅へとシフトする間で継続的なケアマネジメントが確保されず、地域で暮らし続けるための支援の一貫性が保たれていないという問題点が指摘されています。

そのような問題点の解決に役立てるため、

本誌では退院時のアセスメントに必要なヒアリング内容と留意点をまとめました。

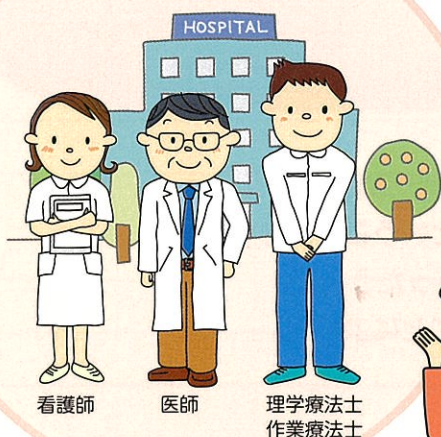
福祉用具専門相談員、介護支援専門員など、在宅ケアを支援する関係者の皆さまにぜひ実践していただき、スムーズな在宅ケアへのシフトと、効果的な福祉用具の活用へとつなげてください。

渡邊 慎一

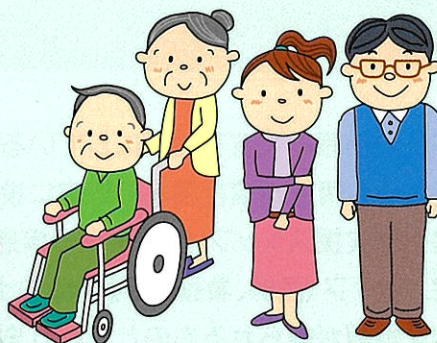
横浜市総合リハビリテーションセンター
医療部 理学・作業療法課 課長

ヒアリング

病院での医療従事スタッフ



利用者、ご家族など



禁止されている
動作は？

身体状態は？

病院内での
福祉用具使用状況は？

入院中の
介護状況は？

在宅での住環境は？

ケアマネージャー

福祉用具専門相談員

アセスメント/プランニング

ケアプランに沿って
留意点を
ご相談しましょう

福祉用具選定の
ポイントが
いくつかありますね



フィッティング/モニタリング

乗り心地は
いかがですか？

